

施策名	行政評価 施策体系	生涯学習の推進	施策 統括課	公民館	氏名	石田 進
政策名		ひとが生きる・暮らす	施策 関係課	生涯学習課、図書館		

1 施策の目的と指標

対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等

・市民

意図(対象をどう変えるのか)

・生涯にわたって学習することができる
・学習の成果を活用することができる

対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない

名称		単位
ア	人口	人
イ		
ウ		
エ		

成果指標(意図の達成度の指標) 数字は記入しない

名称		単位
ア	日常何らかの生涯学習に取り組んでいる市民の割合	%
イ	学習を通じて生きがいを得られたと答えた市民の割合	%
ウ	学習活動に取り組んでいる市民の中で、学習を通じて身につけた知識や技術を地域や社会に生かしている市民の割合	%
エ		
オ		

2 第2次基本計画期間(平成23~27年度)内における取組内容

体系	具体的な取組内容
学習機会・学習情報の提供	一人ひとりのテーマに合わせた学習情報を提供します。公共施設や教育施設等を活用した学習、交流の機会を作ります。子どもから大人までの文化教養に役立つよう図書館機能を高めます。
学習成果を地域や社会に生かす場づくり	生涯学習の推進や仲間づくりの場として利用しやすい社会教育施設を目指します。学習者同士・サークル間のネットワーク化を図り、発表の場の確保や交流を促進します。

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値

単位		数値区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
対象指標	ア 人	見込み値									76,000
		実績値	73,563	73,803	74,251	74,329	74,432	74,265			
	イ	見込み値									
		実績値									
成果指標	ア %	成り行き値				62.3	62.3	62.3	62.3	62.3	62.3
		目標値				61.5	62.2	62.9	63.6	64.3	65.0
	実績値	63.3		61.2	66.7	65.1	64.7				
	基本計画における 施策の目標設定の根拠		第2回国立市市民意識調査において、地域別で高い水準であった東や富士見台地域の割合を全体として目指すことを目標としました。								
イ %	成り行き値				78.2	78.2	78.2	78.2	78.2	78.2	78.2
	目標値				78.9	79.6	80.3	81.0	81.7	83.0	
実績値	78.8		77.5	79.1	76.0						
基本計画における 施策の目標設定の根拠		イ. 第2回国立市市民意識調査において、年代別で最も高い水準であった70歳以上の割合を全体として目指すことを目標としました。									
ウ %	成り行き値				54.6	54.6	54.6	54.6	54.6	54.6	54.6
	目標値				54.9	55.6	56.3	57.0	57.7	60.0	
実績値			54.6	37.6	40.0	35.0					
基本計画における 施策の目標設定の根拠		生涯学習に取り組む市民の割合を向上させ、その割合と比例した形で知識や技術を地域や社会に生かしている市民の割合を向上させることを目標としました。									
エ	成り行き値										
	目標値										
実績値											
基本計画における 施策の目標設定の根拠											
オ	成り行き値										
	目標値										
実績値											
基本計画における 施策の目標設定の根拠											
事務事業数		本数	29	28	27	27	27	26			
施策コスト	事業費	国庫支出金	千円			229		539			
		都道府県支出金	千円	200				147,270			
		地方債	千円								
		その他	千円					680			
		一般財源	千円	162,643	146,299	151,713	143,746	138,418	137,892		
	事業費計(A)	千円	162,843	146,299	151,942	143,746	286,907	137,892	0	0	0
人件費	延べ業務時間	時間	65,572	66,740	67,074	67,518	64,357	65,277			
	人件費計(B)	千円	254,600	248,513	249,888	246,743	230,461	227,367			
トータルコスト(A)+(B)		千円	417,443	394,812	401,830	390,489	517,368	365,259	0	0	0

4 施策の現状

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか?

・平成18年度の教育基本法改正による生涯学習理念追加、平成20年度の社会教育法改正による生涯学習等成果活用など、近年、市民の学びのニーズの多様化・高度化により、学習活動も活発化すると同時に、人間関係の希薄化など、多くの課題も新たに生まれてきています。そうした社会の状況を切り開くため、行政は生涯学習計画(社会教育計画)策定などを通じて、将来にわたる生涯学習施策を具体化し、かつ推進していくことが求められています。
 ・平成23年度の第二次地方分権一括法により、社会教育法及び図書館法が改正され、付属機関の委嘱に地域の独自性が示され、各条例改正を行った。

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?

住民や議会からは生涯学習施設の増設・開設時間延長や生涯学習活動の充実が求められている。
 財政改革審議会の中間答申の中で施設運営の在り方が検討されている。

5 24年度の評価結果

(1) 24年度行政経営方針の取組状況

24年度行政経営方針	取組状況
市民の生涯学習に対する意識が高く、3人に2人が生涯学習に取り組んでいる。引き続き、学びの機会の提供を図るとともに、社会教育法にあるように、生涯学習で身に付けた知識や技術を地域や社会で生かすことができるよう取り組むとともに、生涯学習計画の策定に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習課や社会教育機関の公民館や図書館の活動を通じて、生涯学習に対する支援に努めました。 ・図書館では、国分寺市・府中市との協定による相互利用、ボランティアによる図書宅配サービスを引き続き実施して、読書意欲向上を図りました。南分室書庫では、書架整備により一般公開を実施しました。また、施設面では、新型空調導入により閲覧環境を改善しました。 ・公民館では広域展開のため、引き続き南北地域に出向いた講座を実施しました。 ・第19期社会教育委員の会では諮問「地域による学校支援の方策について」答申作成に向け討議を重ねました。

(2) 施策の成果実績把握と評価

成果指標目標値達成度(目標値と実績値との比較)

成果指標ア【 日常何らかの生涯学習に取り組んでいる市民の割合】
 24年度目標値を達成 未達成 (23年度実績値と比較し成果向上・維持 23年度実績値と比較し成果低下)

成果指標イ【 学習を通じて生きがいを得られたと答えた市民の割合】
 24年度目標値を達成 未達成 (23年度実績値と比較し成果向上・維持 23年度実績値と比較し成果低下)

成果指標ウ【 学習活動に取り組んでいる市民の中で、学習を通じて身につけた知識や技術を地域や社会に生かしている市民】
 24年度目標値を達成 未達成 (23年度実績値と比較し成果向上・維持 23年度実績値と比較し成果低下)

成果指標エ【 】
 24年度目標値を達成 未達成 (23年度実績値と比較し成果向上・維持 23年度実績値と比較し成果低下)

成果指標オ【 】
 24年度目標値を達成 未達成 (23年度実績値と比較し成果向上・維持 23年度実績値と比較し成果低下)

時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上)~E(かなり低下)
 C:成果はほとんど変わらない(横ばい状態)

他自治体との成果の比較 A(かなり高い)~E(かなり低い)
 B:他自治体と比べてどちらかと言えば高い成果水準である

背景として考えられること
 ア...昨年度より微減だが目標値は越えているため成果維持傾向である。
 イ...公民館利用者の増、図書館貸出冊数の増により、学習を通じて生きがいを感じる市民が増加したと考える。
 ウ...調査から地域での自治会活動や発表会への参加が減ったことが要因になったと考えられる。
 生涯学習に取り組んでいる市民の割合は目標値を超え、生きがいを得られている市民の割合も上昇、知識・技術を地域や社会に生かしている市民の割合は減少したが、全体としては成果維持傾向である。
 公民館主催事業を本市以上に展開している自治体が少ない。他市に比べ図書館ボランティア数が多い。

(3) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等)

国立市では、市民の社会教育事業への関心の高さにより、生涯学習に取り組んでいる市民の割合や、学習を通じて生きがいを得られた市民の割合が高いと考えられる。
 図書館では新たな取り組みで始まった来館が困難な方への本の宅配サービスを継続実施したほか、南分室書庫の整備を行い、一般公開した。また、中学・高校生によるYA実行委員会を募集し、YAコーナーの充実、参加型の講演会の企画・実施を行った。
 公民館・生涯学習課・郷土文化館の連携による講座や南北地域に出向いた講座などを実施しました。
 第19期社会教育委員の会では諮問「地域による学校支援の方策について」答申作成に向け討議を重ねた。
 これらも一因となり、生涯学習に取り組んでいる市民の割合の目標値を上回り、学習を通じて生きがいを得られた市民の割合はさらに増加した。

6 施策の課題・今後の方向性

既存の公共施設を活用した各地域のニーズに応じた生涯学習事業を展開していく必要がある。
 ・子ども読書活動推進計画をもとにした読書活動の普及、また、学校図書館との連携を緊密に児童生徒への読書活動の支援を行っていく。
 ・現在、国分寺市・府中市と図書館相互利用を実施しているが、さらに相互利用の促進(立川市等)を図る必要がある。
 ・図書館ボランティアの拡充を図り、ボランティア自身の生涯学習の充実を図っていく。
 ・若年を含めた幅広い世代の参加を促すための周知・啓発に力を入れていく必要がある。
 ・生涯学習計画を見据えた取り組みを進める必要がある。
 ・図書館利用者の利用時間の拡大を図るため平成25年度は東分室の平日2日間、開館時間の延長、南分室については学校の長期休み期間中の午前開館などの時間延長を行う。
 ・公民館・図書館・郷土文化館など社会教育施設の連携(資料収集・事業等)を進める。